

② 京浜臨海部の現況データ

山田孝一

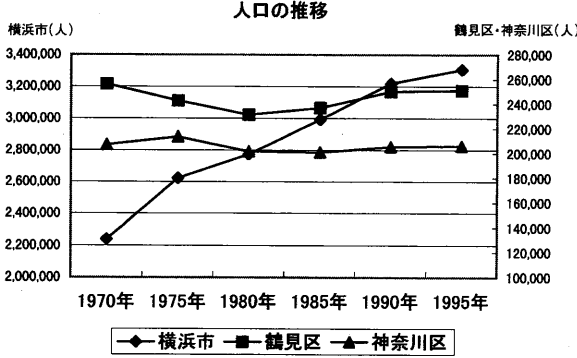
1 人口、土地利用

ここで言う京浜臨海部とは、鶴見区、神奈川区のうち産業道路より海側に位置する工業地域に、産業道路と丁R東海道線に囲まれた既成市街地を加えた地域と定義している。

① 人口

人口の動きをみると、鶴見区、神奈川区の値は直近で再び増加しているものの、横浜市に対するシェアは年々低下している。(図一)

図一



資料：国勢調査

② 土地利用

土地面積の動きをみると、「工業系用地」が減少

(マイナス百七十四・九ヘクタール、マインスイ〇・二%)し、「その他の空地」が増加(百三十七・五ヘクタール、六・一%)してお

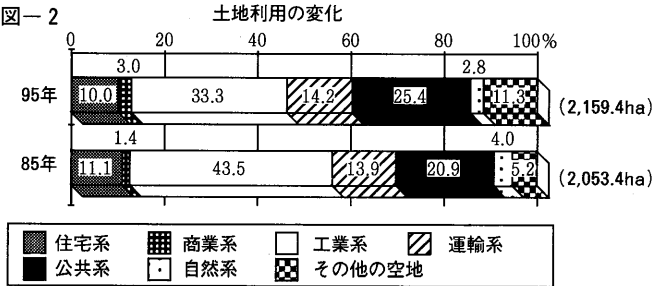
り、土地の遊休化が進んでいる。(図二)

2 従業者数

① 全産業

横浜市の従業者総数は、一九六九年から九六年にかけて堅調に増加(六十万七千三人増、七七・七%)している。区別にみると、鶴見区では減少している一方、神奈川区では増加しており、動きは異なっている。京浜臨海部の従業者総数は減少(三万二千二百五十九人

図二



資料：都市計画基礎調査

② 製造業

横浜市の製造業の従業者数は一九六九年から九六年にかけて二三・八%(六万二千七百十六人)減少している。鶴見区、神奈川区、京浜臨海部の減少率は順に五五・一%、五八・六%、六二・〇%であり、半分以上に減少している。(図三)

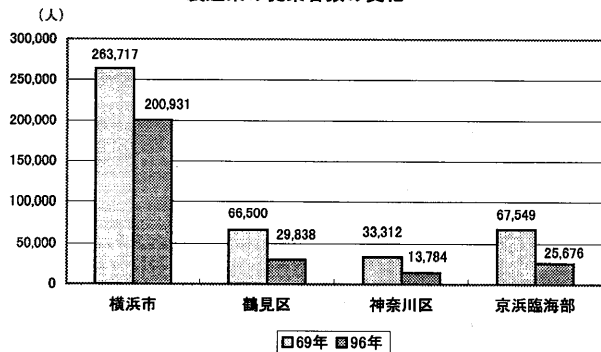
表一 (人)
マイナスイ三三・八%)している。(表一)

	69年	75年	81年	86年	91年	96年	69~96年	
							数	率
横浜市	781,490	909,696	1,034,801	1,135,200	1,309,247	1,388,493	607,003	77.7%
鶴見区	130,310	119,596	121,043	115,615	123,998	122,746	-7,564	-5.8%
神奈川区	94,677	95,842	99,551	104,331	117,122	116,762	22,085	23.3%
京浜臨海部	135,382	119,424	107,884	99,589	109,100	103,123	-32,259	-23.8%
臨海部1層	29,429	27,978	24,115	21,985	25,310	23,416	-6,013	-20.4%
臨海部2層	24,955	9,840	22,349	13,270	17,311	14,183	-10,772	-43.2%
臨海部3層	0	0	797	2,098	3,056	4,791	4,791	601.1%
既成市街地	80,998	81,606	69,097	62,236	63,423	60,733	-20,265	-25.0%

資料：都市計画基礎調査

図三

製造業の従業者数の変化



資料：事業所統計調査

- 1 人口、土地利用
- 2 従業者数
- 3 事業所数
- 4 製造品出荷額等、粗付加価値額

3 一事業所数

① 全産業

横浜市の一九六九年から九六年にかけての事業所総数は、従業者総数同様、増加（五万一千八百三十一か所増、七〇・九％）している。また、鶴見区、神奈川区についても、全市と比較すると伸び率は低いものの増加傾向にある。一方、京浜臨海部の事業所総数は逡減傾向にある（四十か所減、マイナス〇・六％）。しかし内訳をみると、臨海部第一、二、三層においては、大黒ふ頭への事業所の立地が進んだこと等もあり事業所数は増加している。（表一・二）

表一 2

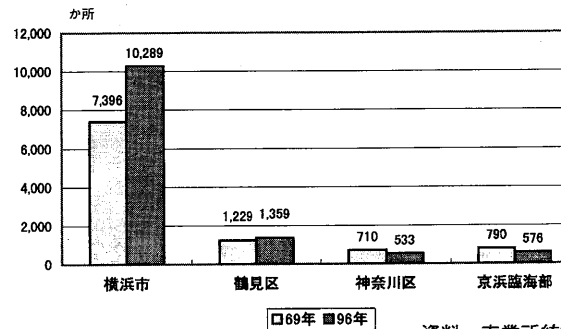
	69年	75年	81年	86年	91年	96年	69~96年	
							数	率
横浜市	73,053	95,078	112,350	117,945	122,623	124,884	51,831	70.9%
鶴見区	9,137	10,638	11,760	11,780	11,815	11,489	2,352	25.7%
神奈川区	7,807	9,198	10,351	10,285	10,668	10,474	2,667	34.2%
京浜臨海部	7,001	7,657	7,265	7,113	7,133	6,961	-40	-0.6%
臨海部1層	429	415	421	446	489	484	55	12.8%
臨海部2層	72	83	113	140	192	176	104	144.0%
臨海部3層	0	0	53	80	128	192	192	362.3%
既成市街地	6,500	7,159	6,678	6,447	6,324	6,109	-391	-6.0%

資料：都市計画基礎調査

② 製造業

横浜市の製造業の事業所数は、一九六九年から九六年にかけて三九・一％（二千八百九十三か所）増加している。一方、京浜臨海部の事業所数は二七・一％減少している。区別では、鶴見区で一〇・六％の増加、神奈川区で二四・九％の減少となっている。（図一・四）

図一 4 製造業の事業所数の変化



資料：事業所統計調査

4 一製造品出荷額等、粗付加価値額

① 製造品出荷額等

横浜市の製造品出荷額等は一九六九年から九六年にかけて二〇・五・六％増加している。区別にみると、鶴見区では五九・六％の増加、神奈川区では一三・五％の減少と動きは異なるが、横浜市に対するシェアはいずれも低下（順にマイナス一四・三％、マイナス一二・〇％）している。（表一・三）

② 粗付加価値額

横浜市の粗付加価値額は、製造品出荷額等同様、一九六九年から九六年にかけて二三・八・九％増加している。区別にみると、鶴見区では六四・八％の増加、神奈川区では六・二％の減少と動きは異なる。しかしながらシェアはいずれも低下（順にマイナス一四・二％、マイナス一二・四％）している。（表一・四）

表一 3

		69年	75年	81年	86年	91年	96年	69~96年	
								増減額	増減率
横浜市	額（億円）	18,072	34,719	58,927	51,748	65,508	55,226	37,154	205.6%
	シェア（％）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—	—
鶴見区	額（億円）	5,414	8,468	11,865	7,508	8,476	8,643	3,229	59.6%
	シェア（％）	30.0%	24.4%	20.1%	14.5%	12.9%	15.7%	-14.3%	—
神奈川区	額（億円）	3,023	5,198	9,107	7,208	7,870	2,616	-407	-13.5%
	シェア（％）	16.7%	15.0%	15.5%	13.9%	12.0%	4.7	-12.0%	—

資料：工業統計

表一 4

		69年	75年	81年	86年	91年	96年	69~96年	
								増減額	増減率
横浜市	額（億円）	6,776	11,801	17,714	19,188	26,572	22,967	16,191	238.9%
	シェア（％）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—	—
鶴見区	額（億円）	1,875	2,365	3,060	2,937	3,551	3,090	1,215	64.8%
	シェア（％）	27.7%	20.0%	17.3%	15.3%	13.4%	13.5%	-14.2%	—
神奈川区	額（億円）	1,164	1,846	2,651	1,542	2,773	1,092	-72	-6.2%
	シェア（％）	17.2%	15.6%	15.0%	8.0%	10.4%	4.8%	-12.4%	—

資料：工業統計